岐阜農林事務所の普及活動状況　令和７年３月28日現在

今月の重点活動

■だいこん　「グリーンな栽培体系」の導入拡大を推進

【グリーンな栽培体系のほ場】

則武、鷺山、島、合渡地区を中心とする岐阜市のだいこん産地は、市街地内にほ場が点在し、住環境に対して高い配慮が必要なことから、環境保全型農業の導入を早くから進めてきた。さらなる環境負荷の低減を目指し、令和４年度から令和６年度までの３年間、岐阜市だいこん部会協議会として「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」に取組み、農林事務所が技術的な支援を行ってきた。

３月 25 日の役員会では、３年間の検証結果として３つの技術について再確認を行った。構成技術の１つ目である「大麦リビングマルチ」は現在５ha の実績があり、除草剤使用の削減と簡便さやイメージの良さから今後の拡大が期待できる。２つ目の「くん蒸剤を廃した防除体系」は、既に令和６年版栽培こよみから本格導入しており、高い省力化効果に加え、リスク換算値で 92%削減となる高い環境負荷低減効果が得られたことから、完全移行を目指す。３つ目の「生分解性マルチ」は省力化を重視する生産者で既に導入され、利用面積の拡大が期待される。これらの技術を組み合わせた「グリーンな栽培体系」の導入拡大を産地戦略とし、今後５年間かけて実施していくことについても決議された。農林事務所は今後も支援を継続する。

（園芸産地支援第一係）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■ＧＡＰ推進　土地利用型農業におけるＧＡＰの取組み

【研修会の様子】

岐阜市水田農業担い手協議会（事務局：ＪＡぎふ北部営農経済センター）は３月25日、第15回通常総会を岐阜市のホテルパークで開き、40人の参加者がＧＡＰの取組みについて学んだ。

当協議会は、地域の水田農業振興や担い手の育成・確保を目的に、先進地視察研修、農業経営並びに栽培技術に関する研修会を年３回開催している。

この日は、農林事務所から「土地利用型農業におけるＧＡＰの取組み」について講演した。担い手農家は地域農業に不可欠な存在であり、農業経営を永続的に行うためには、食品安全・労働安全・環境保全の三つの視点が必要であること、事故を起こさず、安全に農場運営を行い、法令に順守した農業をするためにＧＡＰが役立つことを説明し、既にＧＡＰに取組む担い手からの評価と感想について報告した。

今後、農林事務所は農作業安全、救命講習に関する研修会を開催する予定で、土地利用型農業の担い手のＧＡＰの取組みを支援していく。

（地域支援第一係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲種子　水稲種子採種組合栽培講習会が開催される（羽島市）

【栽培講習会の様子】

３月４日、ＪＡぎふ羽島北支店において、羽島市水稲種子採種組合栽培講習会が開催され、組合員をはじめ、羽島市、ＪＡぎふ担当者が出席した。

令和６年産の水稲種子生産は、成熟期の異常高温による登熟不良で小粒化し、歩留りや品質の低下が懸念されたが、計画数量を確保でき、組合員 14 名のすべての種子が合格となった。

農林事務所からは、令和６年産の生育経過や精選状況とともに、次年度種子の高品質・安定生産に向けた土づくりや施肥、病害虫防除等、栽培管理のポイントを説明した。組合員らは、令和７年産でも全量合格できるよう栽培管理を徹底していく決意を新たにしていた。

農林事務所では、今後も関係機関と連携し、優良種子生産に向けた支援を継続する。

（地域支援第二係）

■にんじん　各務原にんじん生産販売検討会（出荷反省会）

【春夏にんじんのほ場風景】

各務原市園芸振興会にんじん部会は、３月６日にＪＡぎふ各務原にんじん選果場において、生産販売検討会（出荷反省会）を開催した。

生産販売検討会は、にんじん部会役員、ＪＡ全農岐阜県本部、ＪＡぎふ、各市場が出席し、令和６年産の春夏にんじん及び冬にんじんの販売実績・販売経過等について検討が行われた。

各市場の担当者からは、他県の令和７年産の春夏にんじん産地の生産販売状況について情報提供が行われた。また、ＪＡぎふ担当者からは、令和７年産の冬にんじんの生産販売に向けた連続出荷への取組み、農林事務所からは春夏にんじんの生育状況について説明を行った。

今後も農林事務所では、にんじんの安定生産に向けた実証ほの設置など支援を継続する。

（地域支援第二係）

■にんにく　自然薯　徳山とうがらし　　根尾特産振興会の総会開催

本巣市根尾地域で特産品として栽培されているにんにく、自然薯、徳山とうがらしに係る根尾特産振興会の総会が、３月14日根尾ふれあいホールで開催された。各品目の令和６年度事業報告及び収支決算報告及び令和７年度の事業計画及び収支予算が協議され、承認された。

農林事務所からは令和６年度の栽培状況と気象経過及び近年注目となってきているバイオスティミュラント資材の基本について情報提供した。

今後も農林事務所では、地域特産品目の生産拡大・安定出荷にむけて栽培講習会等で技術支援を行っていく。

【講習会の様子】

（地域支援第三係）

■いちご　３月の生育・出荷状況

本年作のいちごは、２月末まで低温･寡日照により抑制気味の生育だったが、３月以降は平年の気温を超える暖かい日が続いたため、生育が旺盛となり、果実の肥大、着色が進んだ。その結果、３月の出荷量は急激に増加しており、今作の出荷ピークを迎えている。一方、気温の上昇とともに、過熟果や、アザミウマ、アブラムシ等の害虫による被害果が見られるようになってきた。

多くの生産者は５月末頃まで出荷を継続する予定で、今後は適切なハウス内気温管理、適期収穫・防除が重要な作業となってくる。

農林事務所では、今作の終了まで品質の良いいちごが生産できるよう支援していく。

【いちごの高設ベンチ栽培の様子】

（園芸産地支援第二係）